

「高度かつ専門的な医療と温かみのある医療サービスの提供で、
能登全域の住民の健康を守ります。」

センター長のごあいさつ

先日の豪雨により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。
能登半島地震に続き、なぜここまで能登が被災しなければならないのか。という憤りに堪えません。震災、水災復旧もままならない中、地域医療に従事されている皆様の一助となられるよう、能登の中核病院として急性期医療の使命を全うできるよう取り組む意義を改めて感じております。

日頃の連携・協力体制が有事にも力を発揮すると再認識し、今後とも各医療・介護・福祉機関との関係を深めたいと思いますので、皆様どうぞ宜しくお願いいたします。

地域医療支援センター長 山端 潤也

「臓器移植推進キャンペーン 活動」

 Green Ribbon Campaign

10月16日のグリーンリボンデーを中心に全国各地で臓器移植医療への理解が広がることを願い、移植医療のシンボルカラーの緑の光で彩るグリーンライトアップが行われました。

当院では、臓器移植普及月間に合わせて、臓器移植普及展示ブースの設置や入口・遊歩道をグリーンライトで照らし、普及活動を実施しました。



小児科休日当番日のご案内

11月 10.23 12月 15.31

「臓器移植」に関する研修会を実施しました

当院は脳死下の臓器提供体制整備施設

当院は脳死下の臓器提供体制を整備した施設であり、毎年、臓器提供啓発活動の一環として、臓器移植に関する研修会を行なっています。

9月19日、大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター 救急認定ソーシャルワーカーの福森優司先生に「重症患者対応メディエーター（以下メディエーター）の実際」をオンラインでお話いただきました。軽快な関西弁と情緒豊かな実践紹介で、あっという間に1時間が過ぎました。

「バッドニュースを伝えなければならない医師と向き合い、過度のストレスから通常の判断が難しい家族に徹底的に寄り添って意思決定を支援する」というメディエーターの役割の重要性を実践紹介から学びました。メディエーターの存在は、混乱の中にいる家族にとって非常に心強い存在です。メディエーションを念頭にスタッフが患者・家族に関わる意識づけをする良い機会となりました。

意思決定支援に大切なことは、①本人の意思表示は残された家族にとって大きな力になるため、事前に話し合っておく②家族と一緒に、本人のことを思い、振り返り、考える③決して画一的、作業的に対応せず、個別に丁寧に支援する、という3つの視点です。この3つの視点を大切にして、臓器提供の場面に限らず、さまざまな場面で、熟慮に基づく意思決定を支援できるよう取り組んでいきたいです。



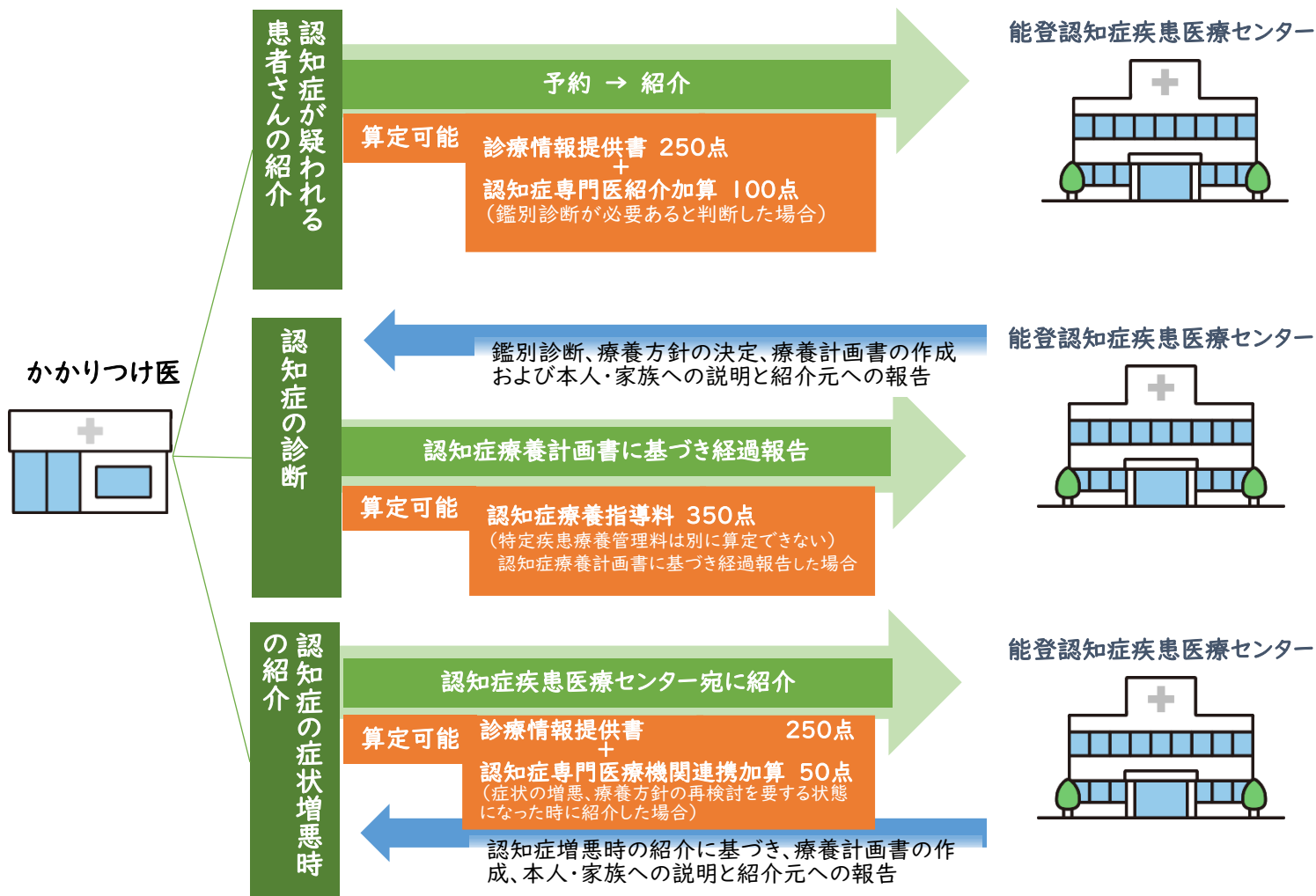
能登認知症疾患医療センターのご紹介

平成29年4月1日より、当院の精神センター内に「能登認知症疾患医療センター」を開設しています。

認知症でお困りの方は、ぜひ当院「能登認知症疾患医療センター」へご紹介ください。ご紹介のタイミング等に応じて、かかりつけ医で算定できる診療報酬がありますので、ご参考にしてください。

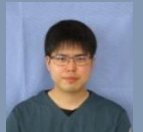
要予約 認知症疾患医療センター宛に紹介

予約先 地域医療支援センター TEL:0767-52-8718



研修医のひと言

研修医 知念 幹



研修医2年目の知念幹です。去年の4月から当院で研修医として働いております。今回、腎臓内科をローテートしている時の出来事について話したいと思います。

写真は、上級医の指導の下で透析患者さんに中心静脈カテーテル挿入術を行っている時のものです。通常、透析治療の際には腕にある動脈と静脈を直接繋ぐシャント造設を行い、そのシャント部分から透析を行います。透析治療が急に必要になった場合や、シャントの作成が困難な場合などは、中心静脈カテーテル挿入を行います。写真でのカテーテル挿入は順調に進み無事成功し、透析治療が上手にいきました。今後も様々な手技を身につけていきたいと思っています。8月からは眼科をローテートする予定で、検査や疾患について学び日々精進したいと思っています。



「食」

に関する研修会・意見交換会を実施しました

当院の食支援チームって？

当院には、多職種（歯科医師、歯科衛生士、看護師（認定等含む）、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士等）で院内外活動に取り組む【食支援】チームがあります。

当院食支援チームで、七尾・中能登圏域内の介護施設等を対象に、食支援に関する研修会・意見交換会を実施しました。

参加後のアンケートでは、「普段、口腔面でどうすれば良いのか悩みながら業務をしていたため、専門職の話を聞けて勉強になった。」

「『食べる』に影響する因子について、学ぶ機会があれば参加したい。」

など、食に関する興味・関心の深さがうかがえました。

今後も食支援チームで、地域に向けて『食』に関する研修会を計画する予定です。

